

平成29年度 日南市立南郷小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン:豊かな心と自ら学び考える力を持ち、たくましく生きる児童の育成

【評価】 4:よい、3:だいたいよい、2:もう少し、1:よくない

教育的課題	重点指導事項	評価項目	4と3の割合(%)				総合(%)	考察及び改善策	学校関係者評価委員の意見
			児童	保護者	地域	職員			
確かな学力	基礎・基本的な力を習得させ、考えを表現する力を育てる。	①子どもたちに、基本的な学力(読み、書き、計算の力)が身に付いている。	88	88	71	88	①について、職員の評価割合が昨年度よりも高くなっている。これは、各種学力テストの結果の向上はもとより、日々の児童の表現や小テスト等の結果から判断できる。 ③について、保護者と職員の評価割合が昨年度よりも向上し、ともに期待値に達している。参観日や学級通信等での啓発はもとより、朝の登校時に家庭学習の取組確認をし、意欲を高める声かけ等を行ったことにより、家庭での学習習慣が身に付いてきたためと考えられる。 ⑤についても職員の評価割合が向上している。これは、職員研修で「分かる授業」づくりをテーマに取り組んだ成果として、職員の意識向上が図られたためと考えられる。	様々な教育活動に地域の講師や学習支援ボランティアを活用することは、南郷小学校の最大の強みであるとともに、児童に生きて働く学力を身に付けさせるための有効な手立てであると考えられる。 したがって、単元や一単位時間の目標達成に向けた活用について、今後更に工夫していく必要がある。	
		②子どもたちは、自分の考えを文章で表現する力が高まっている。	78	66	59				
	家庭と協力して教育活動を推進する。	③子どもたちは、家庭での学習習慣が身に付いている。	90	80	87				
	学力を向上させ、個性や能力を伸ばす。	④先生は、子どもたちの学力を伸ばすために努力している。	97	92	100				94
		⑤先生は、分かりやすい授業にするために工夫している。	98	94	100				94
		⑥先生は、子どもたちの個性や能力を伸ばそうと努力している。	97	91	100				84
豊かな心	校内外における基本的な生活習慣を育てる。	⑦子どもたちに、基本的な生活習慣や生活リズムが身に付いている。	87	86	86	78	87	⑦⑧について、職員の評価割合が昨年度よりも30%程度高くなっている。保健だよりや学校だより等での啓発や学級での指導が児童の姿となって現れている成果だと考えられる。 ⑩⑪の職員の評価割合は、ともに100%であるが、他の評価者の割合が職員の意識を下回っている。来年度は、毎月1~2回の教育相談の時間を設定し、児童の心を耕す活動の改善に努める。	学校において児童の指導方法を工夫していくことはもちろんであるが、学校行事や各種会合において、例えば、私語が多かったり、集中して話が聴けなかったりする保護者が多いなどの実情がある。望ましい保護者の態度はどうか、改善に向けて学校としてどのようにアプローチしていくかについても改めて考えていく必要がある。このことが、家庭における教育力を高めていくことにもつながると考えられる。
		⑧子どもたちは、「あいさつをする」「時間を守る」「きまりを守る」ことができる。	92	83	90	84			
	児童を理解し、一人一人を大切に育てる。	⑨ハートフル委員会等で児童理解に努め、生徒指導に関する共通実践に生かしている。				94			
		⑩先生は、子ども一人一人を大切に、子どもに関する相談に適切に応じている。	97	93	100				
	心を耕す活動となるよう、ねらいを踏まえた内容を仕組み、将来の夢や希望を育む。	⑪児童の心を耕す活動となるよう、ねらいを踏まえた内容を仕組んでいる。	93	89	100				
		⑫子どもたちは、将来への夢や希望について話すようになった。	77	66	100	65			
たくましく生きる力	自他の命を守り、交通安全や行動マナーの規範意識を育てる。	⑬子どもたちに、自分の身を守るための判断力や行動の仕方が身に付いている。	89	84	88	83	87	⑬⑭について昨年度と比べると、児童の以外の評価割合が向上している。全校集会等で、命を守る行動の大切さや方法等を適時話をしたり、ろうか歩行の指導週間等を設定して指導したりしたことが、無事故につながったためだと考えられる。 ⑮については、児童の評価割合は高まっているものの、継続して困難に立ち向かい、課題を解決する力を育てるべく、学校の教育活動全般をとらえて、挑戦する機会を設定する。	ボランティアで支援に入った際に、してはいけないことをしていた児童に対して担当の先生が的確に指導している場面を見た。 このように、事故防止や行動マナーの意識を高めていくためには、教員の毅然とした指導が大切であると考えられる。指導のタイミングを逃さず、適切に指導していくような体制づくりが必要である。
		⑭子どもたちは、事故防止や行動マナーに対する意識の向上が高まっている。	93	88	72	93			
	困難に立ち向かい、課題を解決する力を育てる。	⑮子どもたちに「挑戦する」意識が高まっている。	92	74	76				
	体力の向上に努める態度を育て、健康な体を育む意識を育てる。	⑯学校は、子どもの体力を高める取組に努めている。	90	90	100	83			
		⑰子どもたちは、自分の健康に関心をもって生活するようになった。		69	86	87			
		⑱学校は、子どもたちの健康安全に配慮し、保健や給食の面で適切に対応している。		95	100	100			